第５回 青森県人づくり戦略推進会議

日　時：平成２３年１０月２８日（金）
　　１３：００～１４：３０
場　所：青森国際ホテル　３階　孔雀の間

（司会）
それではただ今から、第５回青森県人づくり戦略推進会議を開会します。
私は司会を務めさせていただきます人づくり戦略チームリーダーの櫻庭と申します。よろしくお願いします。
それでは開会にあたり、本会議の議長であります三村知事より御挨拶を申し上げます。

（三村知事）
どうも、皆さん、こんにちは。
お忙しい中ではございますが、「第５回青森県人づくり戦略推進会議」に御出席を賜り、誠にありがとうございます。
また、皆様には、日頃から県政の推進にあたりましても御理解・御協力をいただいておりますことに併せて感謝を申し上げたいと思います。
この会議は、「あおもりを愛する人づくり戦略」の推進に向けた気運醸成と、関係する皆様方の連携強化を図り、本県の人づくりの取組を効果的に推進することを目的に開催をいたしております。
さて、青森県におきましては、震災復旧・復興に加え、長引く経済不況、人口減少、地域のコミュニティ機能の低下など、それぞれの地域や社会で、これまで遭遇したことのない多くの課題に直面をいたしております。
私は、こうした時代の荒波を乗り越えて、青森の未来と元気を切り拓き、本県が目指す「生活創造社会」を実現する上で最も基本となるこの各分野を支える人の財、すなわち「人財」、この「人財」の育成こそが我々にとりまして未来への基盤づくりであると考えているところであります。そのために本県の豊かな地域資源を活用し、創造性を発揮し、新たな価値を生み出すイノベーションの心を持って、自らチャレンジする「人財」を育てていくことが重要と考えております。
本日は、県がチャレンジ精神あふれる人財育成として取り組んできた事業につきまして、参加者の方々から発表していただきますとともに、皆様方からも幅広い御意見をいただきたいと思います。
発表では、「日本の次世代リーダー養成塾」に参加した県立むつ工業高校の相内さんと慶應義塾大学生の久保田さんに、また「あおもり立志挑戦塾」の塾生代表として若井さんに、

それぞれ体験談や活動状況について御紹介をいただきます。どちらも大変ユニークに活動をしておりまして、乞う御期待というところでございます。

それでは本日の会議を契機といたしまして、関係機関が一体となっての人財育成に取り組む気運を一層盛り上げ、「人づくりの先進地あおもり、人財きらめくあおもり」を共に目指していきたいと考えております。何卒、ますますの御協力を御願い申し上げまして御挨拶とします。

ありがとうございました。

（司会）

ありがとうございました。

それでは、ここからの進行につきましては知事の方からよろしくお願いしたいと思います。

（三村知事）

それでは、次第にありますとおり、人づくり戦略推進に係る取組状況について、事務局から説明をいたさせます。では資料１について説明をしてください。

（事務局）

人づくり戦略チームの熊沢と申します。私の方から、資料１に基づきまして人づくり戦略の推進に係る取組状況、このお話を若干させていただきたいと思います。

資料１と同時に、皆さんの前方の方にスクリーンを用意してございますので、そちらのパワーポイントの方も併せて御覧いただければと思います。

この人づくり戦略チーム、平成 18 年にできまして約５年半経ちました。その間、この人づくり戦略チームのミッションとして、県の総合的な人づくりの企画調整、こういったことを学校教育の現場と連携をしながらいろいろ進めてきてございます。特徴とすれば、全国にもまれな知事部局においてある所管部局、そして県庁では最小組織で今、運営をしているところです。

この人づくり戦略の取組についてでございますけれども、スライド１ですが、青森県庁全体で平成 23 年度の人財育成の関係の予算というのが 89 件の、約 10 億円となっております。そして、この表の左側に「あおもりの未来をつくる人財の育成」、そして「今をつくる人財の育成」、そしてその「取組を推進するための仕組みづくり」と、こういう区分になってございまして、主に、この未来をつくる人財については高校生を最重要ターゲットとして位置付けた事業を展開してございます。

そして、今をつくる人財、これは後ほど御紹介いただきますが、あおもり立志挑戦塾の取組ですとか、あるいは各界のトップランナー、経営者を育てるとか、そういったことの、まさに今の青森県経済を背負って立つような方々の人財育成に取り組んでいる事業でござ

います。

それでスライド２になりますけれども、この県の人づくり戦略チームにおける 23 年度の主要事業の体系図になってございます。先ほど申し上げた「あおもりの未来をつくる人財」、こちらが左側になってございます。右の方が「あおもりの今をつくる人財」、そしてこの一番上の方に、全県的な人財力の結集ということで、人づくりのメッカ創出事業。これは実は、今まで「今をつくる人財」「未来をつくる人財」という２本立てでやってきたものについて、５年も経ちました、はやぶさという新幹線も開通したこともあって、ひとつ、人づくりのメッカ、中心地、そういったものを関係各界、県内の業界と一緒になって、その情報発信もしていきましょうという趣旨でこの事業を組み立てているところでございます。

それと併せて右下の方に、県職員の自らのチャレンジ意欲の向上ということで様々な事業を展開してございます。

今回、私の方から御説明させていただくのは、この黄色で書いてある部分、ここについて次のスライド以降で御紹介させていただきます。そして青で書いている部分、これは本日、発表者の方が実際に塾に参加した感想等を述べていただくことになっておりますので、発表でお話をいただきたいと思います。

それではスライド３、人づくりのメッカ創出事業の中身ですが、去る９月５日に、人づくりメッカフォーラム 2011 といったものを開催してございます。講師に日本ＩＢＭの北城様をお呼びしました。御承知のとおり、日本ＩＢＭというのは、今はパソコンは作っておらずソフトウエア産業、ソフトサービスで業績を上げているのですが、その事業構造の転換を図ってうまく経営改革をなされた方が北城さんでございました。そういった方をお呼びして、経営改革とリーダーの役割を御講演いただいております。

そして、さらにＩＢＭ時代の上司、部下の関係であった大久保寛司さんに、人が育つ組織づくりというテーマで、青森県における人づくりのイノベーションを図る上でどういった取組が必要なのかなどについてお話をいろいろお聞きいたしました。この人づくりのメッカフォーラムは、産学官金融、皆さんにお集まりいただいて、企業の方の御参加が約３分の２、全体 350 名ほどお集まりいただきましたけれども、企業の方に多数御参加いただいて、人が育つ組織づくりを一緒に考えるということの場を持ちました。

さらに、分科会におきましては、参加者、各それぞれ人事研修担当者ですとか、あるいは経営のトップの方ですとか、教育関係者の方ですとか、そういった方々に分かれて分科会に御参画をいただいているところでございます。そして、人づくりのメッカ創出に向けては、来年度、さらに県内だけではなくて県外からも人づくり、人財育成をキーワードに注目を浴びるような、実際にこのフォーラムに参加するような仕組み、仕掛けづくり、こういったものを現在企画しているところでございます。

それから、次のページでございますけれども、次世代型キャリア教育実証事業でございます。キャリア教育については、これは今さら申し上げるまでもなく、全国的にもニート・フリーターが増加している、あるいは本県でも高校生の離職率が高いと、こういった問題

があり、学校教育においてのキャリア教育の重要性といったものが非常に大切になってきているところでございますので、その一環として人づくり戦略チームでは青森公立大学と一緒になってＭＢＡ講座というものを開催することとしています。ＭＢＡと言いますので、経営学修士、本来はこれは大学院レベルのカリキュラムになるんですけれども、県内の高校生の方に御参加いただいて、実際のビジネスや実社会に役立ついろんな論理的思考法だとかビジネススキル、こういうものを学んでいただくと。第１回から第４回まで、いろいろ盛りだくさんでございますけれども、例えばこの第４回目の最終では、実際に会社経営のシミュレーションをしていただくとか、そういったような単なる座学ではなくて楽しんで知識を付けていただくような形で 11 月からスタートする予定としてございます。

それから同じく次世代型キャリア教育実証事業で、県内の高校生を対象に、その高校の先輩方が実際に働いて、その働きがいであるとか資格の取り方であるとか、いろんな意味で学校の生徒さん方にお話を伝えると、夢を相伝するといった意味で夢相伝講座という名称を付けておりますけれども、こういった事業も展開してございます。七戸高校、それから大湊高校、こういうところで既に実施してございます。例えば、保育士さん、古牧温泉の方、スーパーマエダの店長さん、消防士さんなどといった方々に、資格の取り方や実際に職業に就くためにいろいろな努力されたことですとか、そういったことを学校の生徒さんの前で語っていただく、こういう取組をしてございます。今後は青森中央高校で 11 月からさらに同じようなことを開催する予定としてございます。

それから（３）として、マンガで伝えるあおもりの人財事業でございます。青森が生んだ人財、これを中高生が再発見、研究をして、その成果を地域の誇りや魅力として広く伝えていただくと、こういう趣旨で実施してきておりまして、「見つけよう！伝えよう！あおもりの人財！」マンガ誌ということで、既に皆さんのお手元に黄色い冊子が配布されているかと思います。実は、これは今日が皆さんに初めてお披露目する形になるんですけれども。黄色の冊子には３名の人財が載っているかと思います。高橋竹山さんと前原寅吉さん、そして大塚甲山さん。これ以外にも、あと３名程度の方々のマンガを書いていただいて、それを２月に発行する運びとなってございます。

それから、最後にキャリア教育がらみのマガジン、ＹＥＬＬというものを今年の３月に作ってございますので、それも御紹介させていただきます。

これは県内外の様々な分野で活躍されている 50 人の社会人の方々に実際にインタビューをして、県内の高校１年生全員に配布いたしました。表紙には、これは川口淳一郎さんを載せておりますけれども、これ以外に凜華せらさんですとか、それからウルトラミラクルラブストーリーを作った横浜聡子さんですとか、そういった地域の先輩方で全国的に活躍されている方々、それから著名な方ではないんですけれども、実際に社会に出ていろいろ働いている方々、そして地域の生業だとか技、こういったものをいろいろ伝えられている方々に、20 代から 30 代の方々を 50 名紹介してございます。

実際に、配布した読者の感想でございますけれども、ここに書いてあるように、非常に

好評を博しておりまして、今年度も同じような形で50名の県内外で実際に働いている方々の生の声を聞いて、そしてそれを高校生にとっての働きがいですとか、高校生に対するＹＥＬＬといったことで冊子にまとめていく予定としてございます。

以上が人づくり戦略チームで今年度主に重点的にやっている事業の御説明でございました。

続いて、発表者の説明に移りますけれども、その前に、次世代リーダー養成塾派遣事業の関係で、県の方から少し御説明させていただきます。

（事務局）

人づくり戦略チームの主査の成田と申します。よろしくお願いいたします。

私の方からは、日本の次世代リーダー養成塾の概要を簡単に御説明しまして、その後に、ここにお出でいただいている高校生と大学生から、元気溢れる発表をしていただきたいと思っています。

日本の次世代リーダー養成塾は、全国の高校生を対象にして、世界に通用する人財を育成するということを目指したサマースクールです。このサマースクールは平成16年度から始まっておりまして、今年で８回目を迎えました。青森県では第７回目の昨年からこの塾に参画していまして、参加者の推薦を行っております。

今年は平成23年7月28日から8月10日までの14日間、場所は福岡県の宗像市にあるグローバルアリーナというところを中心にして開催されました。全国から165名の参加者がございまして、そのうち青森県の推薦枠からは今年８名高校生が参加しております。

こちらが今年の次世代リーダー養成塾に参加した青森県推薦枠の参加者です。8名おりますけれども、今日は一番右に座っているむつ工業高校３年の相内一彦さんにおいでいただきました。

次世代リーダー養成塾の主なカリキュラムは２つございます。この写真に写っているのは各界の著名な代表者、一流の講師から教養ですとかビジネス、国際関係について座学で講義を受けるというカリキュラムがございます。写真では本県出身のＪＡＸＡの川口淳一郎先生が今年講師として名を連ねておりまして講義をしていただきました。

この写真の中では、質問をしているのは本県の参加者の賀差世華（がさせいか）さんの背中が写っているところです。

もう１つのカリキュラムは、このハイスクール国会というリーダー養成塾の代名詞となっている取組です。今年につきましては、3月11日に起こった東日本大震災を受けまして、「高校生によるニッポンの復興会議」というふうに銘打ちまして、全員が国会議員になったつもりで政策の立案等を行ったところでございます。

こちらが、２週間経って帰ってきた８名の参加者の様子でございます。福岡県から青森空港に帰ってきた直後、集まって写真を撮った様子をここに載せておりますけれども、腕をやっているのは青森県の形を示しているということで、ここにおいでいただいている相

内君の発案によるものです。
　それでは、実際に参加していただいた相内さんと、昨年度参加した久保田さんから報告をお願いしたいと思います。

（相内さん）
　はじめまして。青森県立むつ工業高等学校３年、相内一彦です。どうぞよろしくお願いします。
　それではさっそく、第８回日本の次世代リーダー養成塾に参加した感想を発表したいと思います。
　まず感想を発表するに先立ちまして、この場に立たせていただくこと、また青森県代表のメンバーとして参加したこと、そしていろいろと御支援していただいたことに大変感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。
　それではさっそく今回話すことの内容について話していきたいと思います。
　まず、リーダー塾に参加した感想、そしてリーダー塾で学んだこと、ハイスクール国会を通して、心に残った講義、今後の抱負というような順序で話していきたいと思います。
　まずリーダー塾に参加した感想ということで、第１に、元国連の事務次長明石さんやマハティール元マレーシア首相など、多くの著名なリーダーの方々の講義を聞いて、様々なリーダーのことを知ることができました。
　第２に、グループディスカッションなど、話し合う場を通して自分のコミュニケーション能力というものの向上を図ることができました。普段、ディスカッションなど、そういう場が無かったので、とても新鮮で、これからの社会では必要な能力だと感じています。
　第３に、北は北海道から、南は沖縄まで、またアメリカやドイツ、オーストラリア、カナダに留学をしている日本人高校生とリーダーについて議論をする場があり、自分の将来の夢、リーダーとは何かについて深く考えることができました。また、将来、外交官を目指している高校生や、既にもう衆議院議員のもとで身の回りのお手伝いをしながら勉強している高校生の方がいて、同じ高校生の中でも志ややっていることが違ったりだとか、レベルの高い人達を見て、自分の向上も図れました。また、同世代の輪を広げることができました。
　第４に、世界のことを知る上で、逆に自分達が知らなかった日本の様々なところを知り、理解することができました。
　リーダー塾で学んだことと題しまして、まずリーダーに求めるものを学ぶことができました。具体的には、リーダーというものはより鮮明なビジョンを描けなければいけませんということを学びました。また、そのビジョンを実現するにあたり、時には孤立して行動することがよくあります。また、その孤立に対して打ち勝つ能力というものも必要だということを知りました。そして高いレベルではなく、基礎的な、人間の基本的なマナーやルールというものも必要だということを改めて実感しました。

そのようなことを踏まえて、全体的に考えまして、Think Globally, Act Locally、つまり広い視野で物事を考えて、自分の足下から変えていく。世界を視野に入れて、私達に、自分達に何ができるか、地元で何ができるかということをこれから頑張って考えていきたいなと思っています。そしてわたしは将来、国際的な感覚を持った行動力のある地域のリーダーになりたいと思います。

続いてハイスクール国会について説明します。今年のテーマは復興で、この復興について、今ここに書かれている７つの党が様々な政策を提案しました。はじめ４つの党に分かれていまして、その４つの党に分けるためにまず所信表明、党首選を行いました。はじめ11 人立候補者がいまして、私もその中の１人だったのですが、そこで所信表明演説を行い、皆で選挙を行ったところ、見事党首に選ばれました。

その後、復興などについて各党で話し合ううちに、自分の方向性などの違いにより３つの党がまた増え、計７つの党で総理大臣の座を競い合いました。その中で私は一番左にある「和の国日本党」という党の党首に当選し、今回の東日本大震災の復興と予防の政策を考えていき、多くの支持を得ました。残念ながら総理大臣の座には一歩及びませんでしたが、ここで予防の大切さや、様々なことを学びました。

そこで学んだ予防の中で、私達ができる予防としては避難訓練など多くのことがありますが、そのことについてもっと考えていくべきではないかということを、先日行われました国連協会主催のスピーチコンテストに参加し、また、24 日に行われた東京での中央大会では、多くの全国の高校生に主張してきました。また、青森県高等学校総合文化祭に参加し、明後日行われるのですが、そこでも世界における日本のあり方やリーダーとはどういうものなのか、世界で日本はどういうことができるのかなど、多くのことを発表していきたいと思います。

続いて、心に残った講義ということで、多くの講師の中からいただいた講義の中で心に残った２を紹介したいと思います。まず１人目の、日本人画家の千住博さん。千住さんからは、芸術についてお話をしていただきました。千住さんは、美とは本能で感じるものだということを熱く語っていただいて、また美しい国とは生きている実感が湧いてくる国だということを話していました。

このことを踏まえて、美しい国、美しい街、そして美しいむつ市を皆で考えていくべきではないかなということを考えています。

２人目に中村ブレイスという義肢装具を作っている会社の社長さんの中村俊郎さんという方の講義が心に残りました。中村さんは、お客様一人ひとりに対する感謝の気持ちなど、会社というチーム内での感謝の気持ちなどを多く語ってくださいました。また、その講義中に実際、義手、義足を手にとって見る機会がありまして、そこでは世界でトップレベルの日本の技術力をそこで改めて実感する場がありました。また、その技術力や日本の知恵を世界に発信していくべきではないかなと私は考えています。

最後に、私は青森県むつ市出身なんですが、むつ市が大好きで、田名部祭りに小さい頃

から参加しています。これまでお世話になった方々に恩返しをするために、このリーダー塾で学んだことを活かし、将来大学に行き地域などでいろいろなことに参加し、またそれを発信して、将来は国際的な感覚を持った地域のリーダーとしてまちづくり、国づくり、そしてむつ市の発展をむつ市から行っていこうと考えています。

御静聴ありがとうございました。

（久保田さん）

それでは、発表を始めさせていただきたいと思います。

まず私の自己紹介なんですが、お手元の資料の方に載っておりますので御覧ください。青森県庁の「活力と魅力あふれる東青地域づくり検討会議」という、特に新青森駅周辺の活性化についての会議の部会の委員をさせていただいております。また、先日、大学の「地域協働とフィールドワーク」という授業で講演をさせていただきました。高校時代、地域活性化の活動をやってまいりまして、その経験を踏まえて地域協働を起こすにはどうすればいいのかといったことに関していろんな方とディスカッションをさせていただきました。タイトルが『「日本一元気な地方都市を目指して」～あおもり学生プロジェクト　クリエイトの挑戦～』という講演をさせていただきました。

それでは本題の参加報告をさせていただきます。私は第７回に参加いたしました。20 都道府県、２カ国から 180 名が参加いたしました。そしてこの年、初めて青森県から参画県枠ができまして、７名が参加いたしました。ハイスクール国会は２回目、初めて多党制を導入しました。みそ汁コンテストも初めて行われました。また浪曲ワークショップも行われました。

私が一番印象に残った講義は、21 世紀のリーダーになるための７つの条件、佐賀県知事の古川康先生の授業です。選挙に勝つには？成功した人とは？知事になって辛かったことは？この３つが印象に残っておりまして、特に知事になって辛かったこと、家族がいじめられることと言っておられました。「知事という職業柄、マスコミであったりとか世論であったりとか、いろんなところから時には厳しい意見が入って来ますけれども、その自分の評判が家族の評価に直結してしまうのが辛いところ」と言っておられました。「しかし、自分が辛い時は、最後守ってくれるのは家族だ。だから家族はとても大切なんだ」と言っておられたのが特に印象的です。そして浪曲ワークショップというものが行われました。事前課題で、「偉人と私が対話したら」という課題がありまして、その作文をクラス全員で読みまして、一番いい作品を各クラスで選出し、それを浪曲にするというプログラムです。御覧いただければ分かるように、８クラス中５クラスが青森県の作品です。青森県枠の参加者の作品を採用ということで、太宰治とか寺山修司とか、非常に文才が豊かな文化人が青森県にはいますので、やはりその血を受け継いでいるのかなと自分で勝手に思っておりました。

そしてハイスクール国会です。僕達の年は地域活性化、高校教育、高齢社会、国際交流

と、この４つの分野を重点的に話し合いました。プロセスとしては、御覧のようになっております。プレチームから始まって総理大臣になります。地域活性化のメンバーになって、ニッポン元気党の党首になりました。そして、果たして総理大臣になれたのかというところですけれども、私達のニッポン元気党の詳しい政策につきましてはマニュフェストを皆様のお手元の方に資料がございますので、そちらも併せて御覧ください。

キャッチフレーズが「笑う地域にひと来る」というものです。老若男女えがお社会というテーマの下に、御覧のような政策を展開いたしました。マニュフェストとして、こども、高齢社会、地域活性化、税制と、この４つの分野について攻めて、それを公約にしました。

結果、どの政策もユニークである。しかしながら税制改革など、財政を裏打ちしているということでニッポン元気党が第１党に選ばれまして、私を総理大臣に選出していただきました。

所信表明演説ということで、実は私、総理大臣になるとは思ってなくて、本当は事前に原稿を作らなければいけないんですけれども、ちょっと、作ってもどうせ読まないだろうなと思って作らなくて、結果、アドリブでしゃべることになって四苦八苦したんですけれども、その中で、「皆が笑える社会をつくることが政治の原点だ、政治は議員のものではなく国民皆のものだ、知恵を出し合い行動に移して激動の時代を笑顔で乗り切ろう」、こう演説させていただきました。そして、この20名の仲間とこの２週間を戦うことができました。

そしてみそ汁コンテストです。この年、初めて行われまして、地域に根付くみそ汁のレシピを調べた上で次世代にふさわしいみそ汁を皆で考えて発表をしようというものです。私はプレゼンリーダーを拝命いたしまして、これがうちのクラスのみそ汁です。テーマが「家族」、コンセプトが子どもからお年寄りまで食べやすいみそ汁というものです。

プレゼン風景ということで、できるだけ分かりやすいプレゼンにしようということで、図解で分かりやすく示したつもりです。結果、我がクラスは最優秀賞を取ることができました。

この第７回のリーダー養成塾に参加して思ったことは、青森県枠の７人が目立ちまくりで、青森県人は「濃い」んだなと思いました。そしてディスカッションとかディベートとか、そういう技術の向上にはもちろん有効でありましたし、一生の仲間ができました。そしてリーダーとは何か、つまりはリーダーの資質を考えるきっかけになりました。

その後でありますが、報道ではリーダー養成塾関係ではこういった配付資料のような形で出演させていただきまして、私生活ではクリエイトという私が立ち上げた団体を牽引してまいりました。また、ＡＯ入試で慶應義塾大学総合政策学部に入学することができました。

せっかくですので、クリエイトの活動の紹介をさせていただきますと、お手元の方にこちらも資料がございますので併せて御覧ください。

高校生が自分で薦めたい、観光客にお薦めしたい観光施設を自分でアポイントメントを取って取材して、それを記事にする一連のプロセスを高校生完結でやる観光情報サイトを

運営しております。また、昨年の 12 月 3 日には、東北新幹線開業前夜祭を開催させていただきました。終着駅の東北新幹線全線開業の当事者である青森市が、その開業の前夜に何も無いというのは寂しいんじゃないかということで仲間と立ち上がりまして、このイベントを、お金は無い、人はいない、時間は無いと、この三重苦に悩まされましたけれども、地域の皆様のお陰で何とかイベントは成功裏に終わることができました。この顛末記は非常に皆さんから面白いと言っていただけているんですけれども、説明をすると長くなりますので、東奥日報のインタビュー記事もこちらに添付しておりますので、そちらも見ていただければ少しはイベントのことを垣間見れるかなと思います。

そして、今年の夏は、私の「私のあおもり 100 人インタビュー」ということで、100 名の青森県民、そして青森を訪れた方に、青森の好きなところはどこですかというインタビューをさせていただきました。三村申吾青森県知事にもお忙しい中、インタビューをさせていただきまして、「人が楽しい青森県」ということでメッセージをいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

そして今年度ですが、こういった形で、今年度だけでこういったイベントに参加させていただきました。直近のものですと先週末に行われました「あおもりＩＣＴクラウドフェスタ」にも出展させていただきました。ありがとうございました。

個人的に、地域活性化とは人づくりであると私は考えておりまして、どういったものかといいますと、高校生であったりとか人が地域活性化の活動に参画することによって地域に興味を持ってもらうきっかけになる。そうすることによって地域の人と交流をして地域で活動をすることによってコミュニケーション能力が生まれると考えております。そして、その交流を通して地域の問題点を発見する、これは問題解決能力が得られると思いますし、その問題点の解決の手法を探るとすれば、問題解決能力にも結びつくと思います。そして、そうすることによって地域のリーダーが育成されていくのではないかなと考えております。

クリエイトの来年度のビジョンは、「私が動いて、地域が変わる」－若者が協働し育つ、地域社会づくり－ということで、来年度は本格的に人づくりにも、これまでも人づくりではいろんなことをやってきましたけれども、引き続き頑張っていきたいなと思っております。

クリエイトは今年３年目になりますけれど、とにかくお金は無い、人はいないという状況が続いておりましたので、引き続き来年度以降もお金と人の確保に努めます。また民間企業や行政機関との連携も一層図っていきたいと考えております。また、平成 25 年度末までにＮＰＯ法人として何とか法人化させていきたいなとも考えております。

そして大学における動向です。私は総合政策学部に所属しておりまして、日本で初めてＡＯ入試を導入した学校として知られておりまして、浅野史郎元宮城県知事も教壇に立っております。

大学では地域活性化の研究会に所属しておりまして、今年の夏に鶴岡市での合宿で、地元高校生と「地域ブランド化」について話し合いました。

また、最後に御提案です。リーダー塾は参加した人の視野を広げると、私もすごく参加して非常に視野が広がりました。しかしながら、参加費用が 10 万円というのはなかなか厳しいものがあると思います。私も参加をする時に親からいろいろ言われましたし、周りの友達も同じようなことを言っておりました。青森県で独自にリーダー養成塾を開催してはどうかなと考えております。他県の事例ですと、福岡県では「アンビシャスの翼」ということで、海外に留学をさせようと、そういうプロジェクトもあります。また、大分県でも同様のものがあります。青森県には魅力的な人がたくさんおります。その魅力的な方々の魅力的なお話を通じて、またディスカッションを通じて青森の若者に刺激を与えて欲しいなと考えております。

これからの夢です。これは金魚ちゃんカチューシャというものです。進路ですけれども、高校時代は自分は青森市長になると言っていたんですけれども、大学に行っていろんな人と話しをする中で、なかなか進路について決められなくなってきて、いろんなのが魅力的で、いろんなことをやりたいなと思っております。また、クリエイトを通じて高校生に感動を伝えたい、また街を元気にしたいと考えております。そして「あおもり学会」というものをつくって、青森の未来とか青森のいいところというのをいろんな人と語ってみたいなという夢もあります。また、ねぶたに若者の参加を促していきたいなと考えております。

このリーダー養成塾に参加して、僕の人生というのは多分一つのターニングポイント、変わったのかなと思います。この経験を基にしてこれからの進路やこれからの学業、人生の中で活かしていきたいなと思います。

御静聴、ありがとうございました。

（事務局）

それでは、あおもり立志挑戦塾の塾生の方に今度は発表をしていただきます。

私の方から資料３の①、立志挑戦塾の概略だけを御説明した後で塾生の方々に発表をしていただきたいと思います。

この立志挑戦塾については、今年が４年目でございます。平成 20 年度から開催しまして、過去３年間は、日本総合研究所会長をされております野田一夫先生に塾長を務めていただいております。今年から天明茂先生、公認会計士の方でございますけれども、装い新たに塾を開催してございます。年６回の一泊二日の塾で、その時々に著名な方々の講師をお呼びし、徹底してそのテーマについて一泊二日、夜通しで議論をしていただくと。その結果を翌日発表していただくといったような繰り返しで、年６回開催しているものでございます。

今回は第１期生、そして第２期生、第３期生と、５名の方々に塾で培ったこと、それから卒塾されてからのいろいろな取組についてお話をいただくことにしてございます。

よろしくお願いします。

（あおもり立志挑戦の会　若井会長）

皆さん、こんにちは。

あおもり立志挑戦の会会長を務めております若井と申します。よろしくお願いいたします。

私事でございますけれども、私、今年の９月１日に青森にようやっと帰ってまいりまして、それまで水産商事会社におりまして、知事ほどではないと思うんですけれども年間飛行機に乗った回数が 116 回、マイル計算してみますと地球を４周半しておりました、１年間で。そのようなことをしてやっと青森に帰って来れたので、今はほっとしております。

私どものこのあおもり立志挑戦の会、名前が長くて塾の名前ともほとんど一緒ですので、今後はＡＲＣといいます。

まず、この塾の受講後ですけれども、ここに表記しているのは知事への成果報告会の際の発表内容でございます。１期生の人間が県内の知らないことを知ったと。知ることの継続活動が大事であると。そしてこのＡＲＣを発足いたしました。２期生の方々がチャレンジすること、個々の活動への発展をされました。３期生の方々が次世代への継承、県のユメココ事業からもっとユメココ事業への発展をやりました。発表内容が、より具体的な活動内容になっていることがＡＲＣの特徴ではないかなというふうに思っております。

会発足の目的ですけれども、読んでいただきたいのは一番最後の方の部分でして、「あおもりを離れても、ふるさとあおもりを思い、ふるさとあおもりを語り、そしてあおもりファンを増やしていく」と、これが目的でございます。

2009 年の 2 月 13 日にＡＲＣを立ち上げました。現在は約 80 名の会員がおります。大義名分としては塾の運営のサポートでございますけれども、私個人の意見としましては、青森県内にこんなに素晴らしい同年代の方達がいるのに、年６回で終わってしまってはもったいないというふうに考えまして、会える機会を失いたくないということで発足いたしました。

年代、性別はこのようになっております。女性も６名おりますので、今後増えていっていただければいいなあと考えてはおります。

会員の業種、職種ですけれども多岐に渡ります。

会員の地域別の構成ですけれども、圧倒的に青森市の人財が多いんですけれども、青年会議所ですとか商工会議所青年部にはない独自のコミュニティが青森県内全域に広がっておりまして、上記の地域に仲間がおるわけでございます。また経営者ですとか次世代経営者候補の方達だけではなくて、銀行員や公務員の方々という人財も幅広く拾えているのが私どもの特徴でもあります。つまりは、いろいろな意見をいろいろな角度、業界、職種から見ること、聞くことができるのがこのＡＲＣの特徴ですし、強みだと私は思っております。

地域を知る活動ということで、平成 20 年に青森県立三沢航空科学館に行ってまいりました。それから平成 20 年に雹被害のあった年につがる市市場に行ってまいりました。それか

ら東通原子力発電所にも平成21年に訪問をしておりまして、東通中学校・小学校にも伺っております。ここはやっぱりオープンスペースで学ぶということで、皆さん御存知の方が多いと思うんですけれども、子ども達が心豊かに育っているなということが感じとれました。

それから地域を知る活動として、五所川原の立佞武多の館、それから立佞武多のお祭りも実際に見ました。どうしても県内に集中して夏祭りが開催されている関係で、それぞれの地域で私どもＡＲＣのメンバーで陣頭指揮を取っている人間が多くございますので、この立佞武多を見た時も初めて見る人間が多かったと感じました。同じような流れをくむお祭りでも地域によって表現方法が異なるというのが皆、勉強になったようであります。

それから、今、３期生のメンバーを中心にやっているのが、「もっとユメココ事業」でございます。このユメココでの活動はＡＲＣの副会長を務めております杉山より御説明いたします。

（杉山さん）

それでは、「もっとユメココ」での活動について御説明いたします。

私達は高校生の方に自分の志や職業上の具体的な目標を意識させ、それに向かって取り組む自発的努力を促すことを目的に、社会人になる直前の方達に私達が持つ志や様々な価値観を提供する事業を行っています。活動は9月から10月にかけ３ヶ所で行いました。9月14日に行いました五所川原農林高校では２名が伺い、メロン栽培の苦労や取組などの紹介をし、また無農薬リンゴ栽培にかける情熱などをお話ししました。9月28日の七戸高校では、ＡＲＣ４名が伺い、それぞれの職業から仕事への思いや志、働くことの意味、なぜ学ぶのかということを伝えました。弘前で10月22日に青森県立武道館にて行いました活動では、５つのブースで学生達と対話し交流いたしました。「もっとユメココ事業」では、青森の今をつくる私達が青森の未来をつくる方達に挑戦塾で学んだことをベースに様々な職種、様々な地域で私達の強みであるネットワークを活かし、職業への志や誇りなどを伝え、自分の人生づくり、人生や職業への目的、目標を具体的に意識してもらうサポートを今後も継続して行っていきたいと思っております。

以上です。

（若井会長）

今のが「もっとユメココ事業」の概略でございます。

次に、こちらがＡＲＣ独自のネットワークの詳細を記載するとこのようになります。多分、御覧になってもあまり見えないかもしれませんけれども、これだけいろんな業種についている人間が、いろんな地域に散らばっているというように思っていただければ幸いです。

個々の立志挑戦の活動といたしまして、１期生の竹ヶ原さんと３期生の白濱さんがやられている十和田バラ焼きゼミナールでございます。これは三沢で発生したバラ焼きを十和

田市で地域活性のために広めようと活動をしました。この他に、彼らは「ゆるりら、十和田検定」も実施いたしました。

それから１期生の對馬さんです。脱サラした後にリンゴ農園を引き継ぎまして、紆余曲折があったのですが、無農薬で化学肥料を使わずに自然本来の力を使ってバランスの取れた土壌を作って、作物本来の姿を全国へ販売をすると、これは大変な試みだと思うんですけれども、それを志してやっていらっしゃいます。

それから、こちらは、これだけをピックアップすると青森市以外の方からクレームが来そうなんですけれども、青森ねぶた祭りに出陣している大型ねぶたは 22 団体ございます。そのうちの３団体で陣頭指揮を取っているのがＡＲＣのメンバーでございます。このようなメンバーがやっていると。この他に弘前のもちろんねぷた祭り、五所川原の立佞武多、八戸三社大祭、つがる市ねぶた祭り等、地域の祭りを継承しているメンバーが多数おります。

これからＡＲＣとして進めたい活動は４つございます。知ることの継続、もっとユメココ事業の継続、あおもり立志挑戦塾のサポート、そして挑戦する仲間を増やすということでございます。

あおもり立志挑戦塾へのサポートについて、塾サポート委員長の工藤より、来年度からのあおもり立志挑戦塾への運営資金一部提供について、事務局の蝦名より御説明をいたします。

（工藤さん）

工藤です。塾のサポートをしております。本格的には３期生より塾のサポートをしております。

ただ単にサポートをするわけではなく、共に学ぶという観点から参加費を支払いしてサポートしております。

また、塾をサポートしての感想なんですけれども、塾生が回を増すごとに成長する姿を見ることはとても楽しいことです。また、自分自身も違う考え方の御意見を聞くという場になっておりまして、すごく勉強になります。

以上です。

（蝦名さん）

ＡＲＣの事務局をしております蝦名です。ＡＲＣでは塾生と共に参加し、学ぶという観点から、塾運営のお手伝いの他に何かできることがないかということで、内部の委員会で協議をいたしました。

その結果、９月３日に青森市のねぶたの家、ワ・ラッセにおいて臨時総会を開催させていただきまして、来年度のあおもり立志挑戦塾の運営費に充てていただきたいということで 30 万円を拠出することを決議いたしました。会員それぞれにつきましては決して余裕があるわけではありませんけれども、まずは塾継続のために無理なく拠出できる金額として

決めさせていただいたところであります。
　今後は、ＡＲＣ会員が自ら塾の講師を務めるなど、会員の所属する企業との連携も含めましてより良い運営方法を検討してまいりたいと考えております。
　以上です。

（若井会長）
　そしてあおもり立志挑戦塾の継続についてでございます。このような人財育成塾について、どうしても議論になるのは先ほども出ましたけれどもお金のことでございます。お金のことが出まして、またどのような効果があるんですかと、結論を急がされることが多々ございます。あおもり立志挑戦塾はあくまでも１つのきっかけでございます。塾そのものが即成果に結びつくものではなく、塾で学び、改革した意識が卒業後の事業、活動、仕事等を通して人財のネットワークが成果になると。ネットワークが成果になるということなんですね。それが大事だというふうに考えています。
　「奇跡を呼び込む人」という本がございますけれども、その言葉を引用させていただきますが、人財教育は橋や道路建設とは異なり成長が目に見えない上に点数で評価できるようなものではない。世の中を変えるのは人であり、人を変えるのは教育である。人財育成は長期的なビジョンを持って進めなければならないと私は考えております。つまりは、このあおもり立志挑戦塾の運営を続けていくことが大事だと考えております。
　私どもの活動をいろんな方に知っていただきたいなと思いまして、ホームページを立ち上げております。３年前に立ち上げた後、今年リニューアルいたしました。そのことについて広報委員長の羽賀より御説明いたします。

（羽賀さん）
　広報委員長の羽賀です。ホームページで現在掲載している内容は、これまで活動をしてきた企業間訪問、エクスカーションの様子やもっとユメココ事業などの活動報告、それに伴う改善内容などを記載しています。また、県内各地域に分散している会員同士のコミュニケーションの場所としても利用しています。現在開催中の塾での講演内容をビデオ撮影したものの保存や確認が出来るようにもしてあります。今年度、ホームページをリニューアルしたのですが、フェイスブックやツイッターなどでの会員の連携と近況状況の共有、それぞれの交友関係のある方々への周知活動を並行して行えるようにしました。
　これからのＡＲＣ広報の活動ですが、ＡＲＣの活動報告だけではなく、会員それぞれが青森のために貢献をしている活動を紹介する場所、ひいては会のみの活動にとらわれることなく次代を担うリーダーの活動紹介や青森の良さ、新しい魅力を発信できる媒体にしていきます。
　広報からは以上です。

（若井会長）

そのような取組を私どももしております。

最後になりますけれども、震災も起き、このような不景気の中、教育・人財育成にかける予算を捻出するのは難しい事だと百も承知しておりますが、私どもが享受できた気づきを次世代に、まさしく本日発表してくださった久保田さんですとか相内さんのような方達が入ってこれるように継続していく、これが大事だと思います。

産学官金が一体となって、どこが欠けることもなくあおもり立志挑戦塾を継続していくことを望みます。皆さんの御協力と御理解を切にお願い申し上げまして、私達の挨拶と発表に代えさせていただきます。

御静聴、まことにありがとうございました。

（事務局）

人づくり戦略推進に係る取組状況について、ここまでは主に県の取組、そして県の事業に参加された方々の発表ということで進めてきましたけれども。資料４は、この会議の構成員の方々の人財育成の取組、これについても作ってございます。

それで、時間の関係で大変恐縮なんですけれども、この関係団体の取組として青森県商工会議所連合会様と、それから特定非営利活動法人あおもりＮＰＯサポートセンターさんの方から、この人財育成に関しての取組ということで御紹介いただければと思います。

よろしくお願いいたします。

（青森県商工会議所連合会　中村常任幹事）

商工会議所連合会の常任幹事をしております中村でございます。

私どもの取組の前に、今、発表があって、青森にこういう若い人達がいるんだと、大変心強く、頼もしく思いました。最近の若者は偉くなる必要がない、これ以上、高い給料をもらう気持がないといった方が増えているという話をよく聞くわけですけれども、本当に素晴らしい人財だなというふうに感心をさせられました。私どもの事例発表がむしろ恥ずかしいぐらいでございます。

商工会議所連合会として取り組んでおりますのは、資料にございますように御当地検定、青森検定でございます。青森市ということではなくて県一円を対象に実施しているというものでございまして、実はこの取組は既に４年前から取り組んでおります。なぜ去年まで報告しなかったかと言いますと、この３行目にちょっと書いてありますが、そもそもの目的が新幹線開業を契機に県外からおいでになるお客様のおもてなしの心、ホスピタリティーの向上が主な目的と。それが結果として人財育成というか人づくりにもつながると、そういう考え方でおったわけです。

ただ、４年経ちまして徐々に初級から中級・上級と、中級・上級を目指す方々が増えてきますと、むしろ人づくりという要素が強い、色彩が強くなってくるのかなというふうに

思っています。

ここに書いてございますように、目的としては今お話をしましたホスピタリティーがメインだったわけです。青森県全体のことを正しく理解をして情報発信をしていただく、そして次世代に語り繋いでいくといったことを目的にしておりまして、２番の事業内容にございますが、公式のテキストブック、東奥日報さんの協力を得て作成をし、県内中心に発売をしているわけですが、これまでの発売部数が 12,000 部でございます。その結果、検定を受けて合格された方が、これまで４年間で 1,800 名、初級試験が一番最初に始まりまして４回実施をしておりますし、中級試験がその翌年からということで３回、上級試験は昨年度からで２回実施をしております。このテキストブックも来年で５年目を迎えますので、そろそろ次に向けての改訂の検討を始めないといけないというふうに思っています。

それから、今年からの新たな取り組みとして、（３）にございますが、検定の合格者、この方々の活動を少し支援をしたいということで、今、商工会議所のホームページの中に上級合格者の方で御協力をいただける方に、これから検定を受けようとする方へのアドバイスですとか自分が青森の魅力を発信するいろんな機会、どういう機会があったか、どんな内容の魅力を発信したかといったような記述をしていただいておりまして、これから受験する方の関心を高めていただくことと、それから合格した方々の活動領域をできるだけ広げられたらいいなという思いでこの事業に取り組んでおります。県のアプティーネットからもアクセスできるような形になっております。

それから最後の４番目として、これも今年度からですが、この御当地検定、青森検定を県民カレッジの認定講座に登録をしていただきました。県民カレッジを受講している方が検定を受けられるというケースが非常に多くなっておりまして、合否に関わらず受験された方に２単位と、講演会並みの単位を与えていただいているというような形になっております。

今、課題としては、合格された方々をどう観光振興、青森の魅力発信、これに活かしていくかと。もう２～３年前からいろいろ検討をしているのですが、かなり難しい状況がございます。

しかし、何とかそれをしていかないと、これからの発展につながらないということで議論を重ねていますが、皆様方からも何かいいアイディア、お知恵がありましたら是非お教えをいただければと思います。

以上です。

（三村知事）

ありがとうございました。

では、あおもりＮＰＯサポートセンターさん。

（あおもりＮＰＯサポートセンター　田中理事長）

ＮＰＯ法人あおもりＮＰＯサポートセンターの理事長をしております田中弘子と申します。

あおもりＮＰＯサポートセンターの人財育成の取組については、直接また 11 月 21 日に知事との元気トークの時に、またお会いした時に詳しくお話しさせていただきます。

ＮＰＯサポートセンター、つまりＮＰＯという中間支援組織というのは、ＮＰＯとＮＰＯ、それからＮＰＯと企業、ＮＰＯと学校とか、いろんなところをつなぐという役割を持っております。そういう意味で、もちろん繋がるだけではなくて、そこで活動をしている団体のマネジメント等のアドバイスをするとか、そういうサポートの方にも力を入れているということが今のＮＰＯの中間支援組織としてはとても大事なことだと思っています。

これは弘前の１つの事例ということで、私自体がもうこの実行委員会の理事に入って、お金の方の、人づくりだけではなくて財政力というか、やはり活動をするためには非常に財政力が必要で、それにプラス市民力ということで、子ども達から、小学校、幼稚園の子どももいますけれども、そういう小さい時から世界の中の日本、日本の中の青森県、青森県の中の自分達の住んでいるところという、そういう価値観というか考え方が子どもの時からそういう感覚が身についていくとものすごくグローバルな、感動をしてもグローバルに受け止められると、そういう子ども達ができるのではないかと、そういうことと、御存知のとおり弘前はとても、例えば弘前オペラなんかはアマチュアの団体で、今年 42 回続いているという日本でもすごい誇らしい団体、20 年以上続いている団体というのがたくさんありまして、その団体が今、一緒にネットワークを組んで、音楽ネットワーク弘前というのでいろいろなことの取組、街角コンサートをやったり学校に直接行って出前コンサートをやったりしているという、そういう取組の中で、一つ子ども達のために何か国際的な交流ができないかということから 2009 年から始まりました。

2007 年からもう準備をしておりました。2009 年には知事のところに韓国の子ども達、チョゲ初等学校の子ども達 10 人をお連れして、知事はリンゴジュースをたくさんくださって、とても感激をして、表敬訪問をさせていただいたということもあります。

その韓国の子ども達と 2009 年は弘前や、あるいは県内外の周辺の子ども達の団体との交流ということで、いろいろなジュニアアーティストコンサート、それから各小学校との交流ということをさせていただきました。

2010 年には、お金のこともあるので県内のアメリカのファミリーや留学生、そういう方達との交流をさせていただいて、今年度は残念ながら 3 月 11 日の大震災で日本全土が放射能に覆われているというふうに思われたということもありまして、ちょっとお呼びすることができなくて、来年はインドネシアのバリ島の子ども達を、また表敬訪問に連れて行きます、お邪魔したいと思います。

ただ、音楽団体との交流ではなくて、語学の交流と言えばいいのでしょうか、とても大事なのは子ども達が司会をする時でもハングル語、それから英語、そして来年はインドネ

シアのバリ島語になります。オモスワティーアストーって、こんにちはというのをこう言うんだそうです。そういうふうに１つずつでも言葉を覚えていくということはとてもまた音楽との交流だけではなくてとても大事なところだと思っています。

費用については 400 万～500 万かかっております。ありがたいことに、やはり一口千円の基金をお願いすると、この不景気な世の中でも子ども達のためならばと提供をしてくださる方、随分、市民の方や協賛金を出してくださる、広告を出してくださるという方がすごく多いんです。

そういうことで、来年はインドネシアのバリ島の子ども達を、今、もう確実に決まりまして７月にお呼びします。これもまた各学校と交流をしようということも踏めて、弘前の市民会館でコンサートを開くということだけではなくて、今度は今までの団体と団体、音楽団体と団体をコラボレーションした発表をするということで取り組みたいということで、今年、前年祭もやっております。

例えば、和太鼓と、ピアノとか、そういうふうな取組をして、来年インドネシアの子ども達をお呼びしたいということで、国際交流を子どもの時からやっていきましょうということの取組を御紹介させていただきました。

ありがとうございました。

（三村知事）

ありがとうございました。

（事務局）

ありがとうございました。

今、配布されております資料４の一番最後に、この推進会議のメンバー以外の方の取組として協同組合青森卸センターさんのビジネススクール、そして株式会社みちのく銀行さんの経営塾、こちらについても新たな動きとして情報を掲載しておりますので、御参考にしてください。

それでは（１）で人づくり戦略の取組に係る取組状況について、皆さんからの御報告をいただきました。ありがとうございます。

（三村知事）

それぞれ、相内さん、久保田さん、若井会長をはじめ、我が立志挑戦塾ＡＲＣの皆様方、それぞれに発表をいただきましたし、また中村さん、田中さんからもお話をいただいたわけでございます。

それぞれの地域、本当にそれぞれに、あるいはそれぞれの団体、しっかりと活動をしてくださっているそのことを思った次第でございます。

また、今日、配布資料がございますけれども、その中にも県内において様々、それぞれ

の団体がそれぞれにできることをしっかりと地に足を着いて、こうした、人財育成と大きく構えなくてもいいのですが、自分達のできることから地域の人をいろんな形で巻き込んで、一緒に育っていこうということなんでしょうか、進めていらっしゃることを嬉しく思います。

それでは、各団体の取組状況、あるいは取組を進めていく上での課題、あるいは皆様自身、それぞれ思っている人財育成についてのお考えなど、このせっかくの機会でございますから、今日御発表いただかなかった方々もたくさんいらっしゃいます、御発言をいただければありがたいと思います。

どなたか、ございませんでしょうか。

（青森県教育委員会　近藤次長）

県の教育委員会次長をしております近藤でございます。

まず最初に、ＡＲＣの会の方々には五所川原農林高校、それから七戸高校で、それぞれ高校生に志を持って努力する事の重要性についてお伝えをいただきました。五所川原農林高校の校長先生からも、生徒が非常に感銘を受けたということで感謝の言葉が伝えられております。

３期生の知事への成果発表会に、私も同席する機会がございましたけれども、その時、３期生が卒塾後にやると言ったことを１期生、２期生、それから各業種の皆さんとネットワークを組みながら実行をしてきたということについてはすばらしいことだと思っております。

是非今後も次の世代を担う高校生達に志を持って挑戦をすることを伝えていただければと思っております。

それに関連しまして、教育委員会でも今、キャリア教育の推進の取組を行っております。資料として１枚お配りしておりますので、これをちょっと簡単に概要だけ説明させていただきます。

この県教育委員会のキャリア教育の指針の策定でございますが、県の重点枠事業としまして３年間の事業として「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」に取り組んでおります。子ども達が一人ひとり生きる力を身につけて、社会人、職業人として自立していく、そのために必要な力を身につけていっていただきたいということで、今、取組を進めております。

具体には３ヶ年に渡りまして各県内６地域でモデル実践をしながら、今年度はキャリア教育の県の指針、総論編をまとめていきたいと思っております。それから来年度は、続きまして総論編の普及啓発、そして３年目、平成 25 年には実践編をまとめていきたいと考えております。

やはり、キャリア教育というのは、職業体験活動とかあるいは職業講話ということだけではなくて、限られた特定の教育活動ではなく、学校教育全体として学校教育の活動を通

じて取り組んでいくものだと国の中教審でも掲げておりますので、私どもも既存の教育活動をキャリア教育の視点で捉え直す、そういったことを各学校で取り組んでいただけるよう指針策定を進めていきたいと思っています。

御参会の各機関、それから小中高の校長会、ＰＴＡ連合会の方々にも御協力を重ねてよろしくお願いいたします。

（三村知事）

御苦労様でした。

その他、御意見とか、また今日の本当に元気な高校生達の、大学生達の発表等に対しての感想でもいいのですが、ありましたらば激励を込めてという思いですけれども、ありましたらお願いしたいと思っております。

どうですか、ＰＴＡ連合会。

（青森県ＰＴＡ連合会　益川会長）

ＰＴＡ連合会の益川と申します。御指名、大変ありがとうございます。

なかなか、今日御発表いただきましたお二方の発表の方も初めてもちろん聞かせていただきましたけれども、中学校と小学校の括りでの連合会ではございますが、様々な場面を通して様々な研修であるとか様々な企画を、今日の資料にも入ってございますが、提供をさせていただいているのですが、なかなかそれが今日のお二方のような形に繋がっていないというのも実情としてはあるのかなと思ってございます。

そしてまた、ＡＲＣの方々の活動の方も、お恥ずかしい話なんですが、私は今日は十和田からやってまいりまして、なかなか十和田の方にまで活動がきちんと伝わっていないというのも実情でございました。畑中塾長ですとか、白濱君であるとか、もちろん顔見知りではございますけれども、是非こういった機会、こういった情報の方を地元なりそれぞれの所属団体に戻りましてからどんどんまた伝えていって、こういった活動、こういった素晴らしい活動をしているよというところをどんどんまた繋げていった方がいいのかなと感じてございます。

ＰＴＡといたしましては、まだまだ震災の後の支援が必要ではないかなというところで、今度の 11 月の 12・13 日に県大会を開催するわけですけれども、福島の状況ですとかを鑑みますと、まだまだ 10 年、20 年掛かるかもしれないというところで、継続しての支援を訴えていこうかなと考えてございます。是非、今日のこういった機会を与えていただきましてありがとうというお気持ちでどんどんまたフィードバックしていきたいなと考えております。どうもありがとうございました。

（三村知事）

御苦労様です。キャリア教育の話等もあり、吉川先生、いかがですか。

（青森県小学校長会　吉川会長）

学校現場はなかなか明るい材料が見つかりません。最近の新聞に、青森県民の平均年齢が 47 歳と載っていましたが、学校も同様で、職員の高齢化が進んでいます。

少子化の問題も出ています。本校も 10 年間で約 200 人の減少です。子ども達には夢を持って頑張れと言っていますが、社会が閉塞的状況ですので、なかなか元気がでません。しかし、先程、若い 2 人の発表を聞いて、嘆いてばかりでは前に進んでいかないということを知りました。子ども達をあの 2 人のように活動的で、積極的な子どもに育てていかなければならないと思いました。

県教育委員会の次長からキャリア教育のお話がありましたが、学校現場、特に中学校はキャリア教育に力を入れています。職業体験の実施や進路指導の充実を図り、勤労観、職業感の育成を図っています。小学校では、グループホームへ訪問したり、地域清掃等のボランティア活動をとおして生き方指導に努めています。今後も充実を図っていきたいと思います。

（三村知事）

ありがとうございます。それで、青年は荒野を目指すと、久保田君、一生懸命荒野を目指しながら新幹線開業を含めいろいろやってくれた。本当に今回のあの地震・津波のショックがあったが、また頑張ろうということで、観光連盟いかがですか。サポートしてもらっているでしょう、すごいですね。

（青森県観光連盟　神総務部長）

観光連盟の神といいます。

今日は高校生、また大学生、社会人ということで、非常に勇気づけられる発表を聞きました。当連盟も、ホップ・ステップ・ジャンプということで、東京までねぶたを持っていったり、この後、どれぐらいの放物線を描くのかということで、実はベイエリアも対前年比２倍ということで、今までにないコンベンションも県と連携をしてやってきたという思いの中で、その後、地域にはまだ若干凸凹感はあるものの、私達が聞いている部分ではＤＣ、単独でやった本県初のＤＣも含めて非常に対前年比 100％を超えているところもございますので、できれば年内には 110％とか、そういうふうな勢いでやっていきたいと思いますので、それもこれも、全て裾野の広い分野で我々も頑張ります。非常に今日は青森県の人財を見たなということで非常にいい会議でした。また来たいと思います。よろしくお願いいたします。

（三村知事）

その他、何か御意見がなければ時間でもございますので。

事務局の方から何か報告案件とかあればお願いします。

（事務局）
ございません。

（三村知事）
それでは最後に御挨拶を申し上げたいと思います。
今日、皆さんも感じてくださったと思いますけれども、この子ども達、十分大人ですけれども、若い人達、すこぶる元気です。また、立志挑戦の会のメンバーも意欲満々。我々、人づくり戦略と言葉は派手な言葉なんですけれども、県としても、そして民間の団体もそうでございますが、お互いに地道な努力というんでしょうか、地道な人づくりのためにこういうことが大事ではないか、こういうことをしようという、コツコツ本当に積み重ねてきたと、そう思っております。そしてまた、そうやって積み重ねていくことがまた新しい世代の新しい人づくり、人財育成に、費用対効果とか、すぐその時に次の年に成果とか何とかという問題ではなくて、こうして続けていくことというんでしょうか、非常にどんな厳しい中でも常に人こそ我々の地域の宝であり、人こそこの日本、あるいは青森県、世界にとって大切なものであるという思いで継続していくこと、それぞれが継続していくこと、そのことだということを改めて今日感じた次第でございます。むしろ若い方々に教えていただいたと、そういう思いでございます。
何卒、今日、御参集くださいました各団体におかれましても、これまで続けてきたことを、まさに継続は力なりという思いで、しかし常に変化させながらということが必要なんでしょうけれども継続してくださることを心からお願いするしだいでございます。
校長先生から、「いや、元気が出ないな」ということでしたが、大丈夫です、こう見たら元気が出るぞということで、私的に言えば小学校の授業にもいろいろ出させてもらっていますが、青森の子ども達、いいですよ、ニコニコしていて「さあ、頑張ろう」と。どこで暗くなるのかというのがありますけれども。全然暗くなってないですか。
ということで、共にまたいい青森の、そしてこの世界の未来というものにチャレンジ、一緒にチャレンジしていきたいと思います。
今日は本当に御多忙のところ、それぞれお集まりくださいましてありがとうございました。

（司会）
長時間、どうもありがとうございました。
以上をもちまして、青森県人づくり戦略推進会議を終了したいと思います。本日はお忙し中、大変ありがとうございました。